

令和2年度和歌山県文化奨励賞

くまのはやたまたいしやさいじほぞんかい 熊野速玉大社祭事保存会

創 立 昭和39年
代 表 上野 顯
所 在 地 和歌山県新宮市

◎ 業績及び経歴

「新宮の速玉祭(はやたまさい)・御燈(おとう)祭り」は、和歌山県新宮市に鎮座する熊野速玉大社を中心とする大規模な祭礼である。

速玉祭は、10月15日に、神霊を神馬に戴き、速玉大社や御旅所(おたびしよ)などを巡る、神馬(しんめ)の渡御(とぎょ)が行われる。翌16日には神輿の渡御と御船(みふね)祭りが行われる。「一つもの」と呼ぶ人形を載せた神馬を先頭に、神輿が町内を巡った後、神霊は朱塗り神幸用船に遷され川を遡上し、御船島へと向かう。御船島では九隻の早船が御船島を3回廻って先着を競う。島廻りが終わると、神霊は御旅所に入り、浄闇の中で御旅所神事が厳かに行われ、還御(かんぎょ)となる。

御燈祭りは、2月6日に行われる。神倉山の山上に「上がり子」と称する参拝者が集う中、御神火が起こされ、大松明に遷される。大松明から上がり子たちの松明に火が分かたれると、やがてあたり一面は火の海となり山門から上がり子たちが一気に山を駆け下りるその様は、さながら火の滝のようで、この勇壮な祭りに参加しようと、全国から大勢の参拝者が集う。翌日は、御礼参りの日で、神倉山の麓で祈祷や、餅撒きなどが行われる。

これらの祭りは昭和39年3月に和歌山県指定無形民俗文化財となり、平成28年3月には「新宮の速玉祭・御燈祭り」の名称で国の重要無形民俗文化財に指定された。

保持団体である熊野速玉大社祭事保存会は、昭和39年に組織化され、熊野速玉大社を中核として周辺地域の氏子や関係団体と協力して長年にわたり祭礼の執行及び運営を行っている。その功績は、伝統文化の継承のみならず、熊野の世界遺産を活かした魅力発信等、地域の活性化・振興に重要な役割を果たしており、本県の伝統文化の保護および文化振興に対する貢献は誠に多大である。保存会の末永い活動が今後も期待される。

◆主な表彰歴等

昭和39年 和歌山県指定無形民俗文化財
平成20年 和歌山優良県産品(観光資源)
平成28年 国指定重要無形民俗文化財